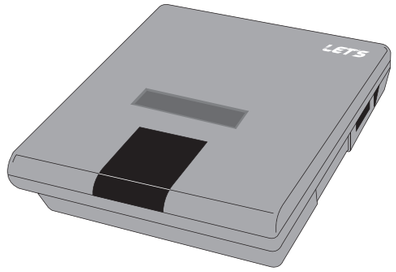
回線切替装置 TELBOSE® シリーズ

SUPER TAKE3 ND

スーパー・テイク・スリー・ヌーディー

取扱説明書



LET'S corporation

1. はじめに

この度は、TELBOSE SUPER TAKE3 ND（以降、本装置と記述）をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本装置は、１本の電話回線に電話機、ＦＡＸ、モデム等を接続し、自動切替ができる装置です。
本書と別紙の「ご使用上の注意」「機能追加部分取扱説明書」を良くお読みいただき、本装置の機能が十分発揮できますように正しくお取り扱い、運用いただきますようお願い申し上げます。
本書と別紙の「ご使用上の注意」「機能追加部分取扱説明書」は付属品と共に大切に保管してください。

注意事項

○本装置および付属品の使用により生じた金銭上の損害逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
○本装置および付属品は、改良の為予告なしに変更することがあります。
○本装置の故障、誤動作、不具合あるいは停電等の外的要因によって、通信、通話、録音等の機会を逸したため生じた損害などの純粋経済損害につきましては、当社は一切その責を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
○本書の内容については、改良のため将来予告なしに変更することがあります。

回線接続の前に

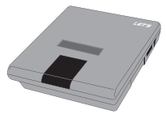
●本装置は、財団法人電気通信端末機器審査協会の認定品です。
●２線式の電話回線に使用することができます。４線式などの電話回線には接続できません。
●ＰＢＸ、ボタン電話の内線に接続する場合、電気的仕様がＮＴＴと同じかどうかを確認してください。
　仕様がＮＴＴと異なりますと機能が正常に働かないことがあります。
●仮着信方式を使用しておりますので、自動ベルモードでお使いの場合、先方は呼出中も課金されます。
●キャッチホンは接続できません。
●ピンク電話（硬貨収納信号送出サービス加入）回線に本装置の接続はできません。（販売店にお問い合わせください）
●ナンバーディスプレイサービス回線にも接続できますが、ナンバーディスプレイ対応電話機が必要になります。
　また、接続されるナンバーディスプレイ対応電話機によっては、本装置・電話機などが正常に動作しない場合があります。
　なお、仕様上ＦＡＸ受信の際も、電話機が数回鳴動することがあります。
●接続される電話回線またはターミナルアダプタ（ＴＡ）によっては、正常に動作しない場合があります。
●留守番電話機は接続できますが、機種によっては正常に動作しない場合があります。
●Ｆネット１３００Ｈｚ無鳴動サービスには使用できません。

本装置を利用した転送の注意

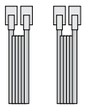
●ＮＴＴアナログ回線のボイスワープサービスに加入する必要があります。
　ただし、ＩＮＳ６４、ひかり電話のボイスワープサービスには対応していません。
●転送先は、１ヵ所の登録となります。複数箇所は対応していません。
●ご利用可能回線種別はプッシュ回線のみとなり、ダイヤル回線でのご利用はできません。

2. 商品構成

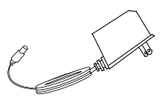
ご使用いただく前に、次の物が揃っているかを確認してください。
万一、足りない場合は、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社までご連絡ください。



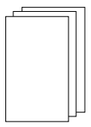
TELBOSE SUPER TAKE3 ND
本体
１台



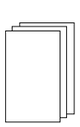
モジュラーコード
ストレート・クロス
（コード長：２ｍ）
各１本



ＡＣアダプタ
１５Ｖ／４００ｍＡ
センターマイナス
１個



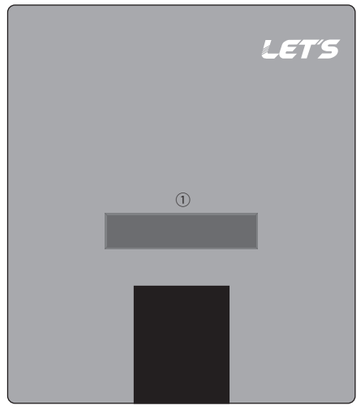
取扱説明書（本書）
機能追加部分取扱説明書
各１部



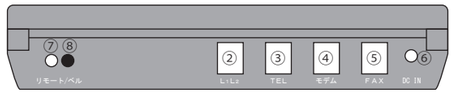
ご使用上の注意
（保証書含む）
１部

3. 各部名称

■上面図



■背面図



■側面図（右）

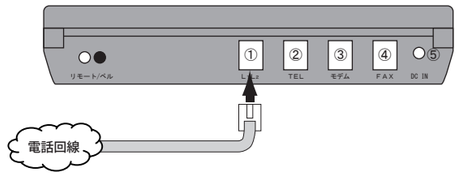
■名称

	名　　称	は　た　ら　き
①	表示パネル	着信番号や発信番号等を表示します。
②	回線接続用モジュラー端子	回線と本装置を接続するコネクタです。
③	電話機接続用モジュラー端子	電話機、留守番電話機を接続するコネクタです。
④	モデム接続用モジュラー端子	モデムを接続するコネクタです。
⑤	ＦＡＸ接続用モジュラー端子	ＦＡＸを接続するコネクタです。
⑥	電源アダプタ接続用ジャック	付属のＡＣアダプタを接続するジャックです。
⑦	リモートモードランプ	リモートモード設定時に緑点灯します。 ボイスワープ作動中に緑点滅します。
⑧	自動ベルモードランプ	自動ベルモード設定時に赤点灯します。
⑨	１０連ディップスイッチ	各種設定を行うスイッチです。

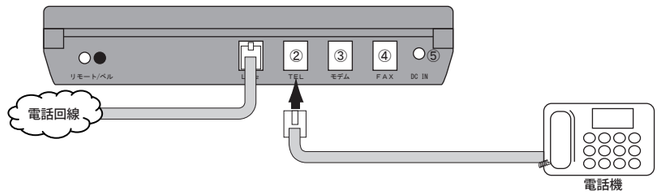
⚠注意　１０連ディップスイッチのカバーを開けるときは、⊖ドライバーなどを使用してください。
　　怪我の原因となることがあります。

4. 接続方法

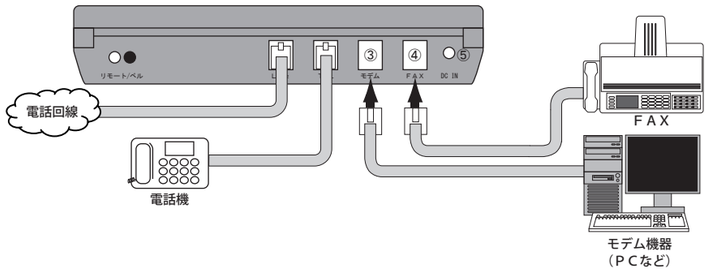
1. 回線との接続
　電話回線（交換機・ＰＢＸなど）からのコードを①［Ｌ１Ｌ２］に接続します。



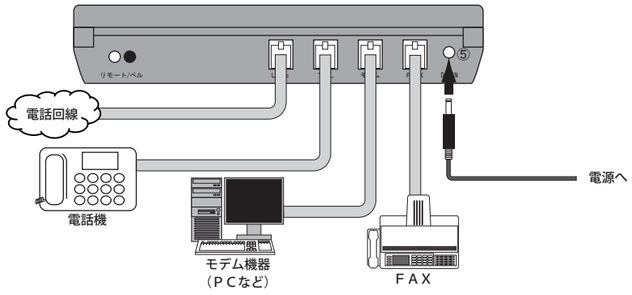
2. 電話機、留守番電話機、ナンバーディスプレイ対応電話機などとの接続
　付属のモジュラーコードなどで、②［ＴＥＬ］に接続します。
　ナンバーディスプレイ対応電話機を接続する際は、後述の注意事項を参照してください。



3.ＦＡＸ、モデムなどとの接続
　付属のモジュラーコードなどで、④［ＦＡＸ］、③［モデム］などに接続します。



4.ＡＣアダプタとの接続
　付属のＡＣアダプタを使用し、⑤に差し込んでください。
　電源はＡＣ１００Ｖ、５０／６０Ｈｚ（一般家庭用電源）以外では使用しないでください。



ナンバーディスプレイ対応電話機を接続する際の注意事項

注意

① 本装置のディップスイッチの設定で、
　［ナンバーディスプレイＡモード］（ディップスイッチ１：下　２：下）　または、
　［ナンバーディスプレイＢモード］（ディップスイッチ１：上　２：下）
　に設定を変更して、ナンバーディスプレイを有効にしてください。

② リモートモード／自動ベルモードのどちらでも使用できますが、接続される電話機によっては正常に動作しない場合があります。
　※ ②について、電話回線の極性を入れ替えて、本装置の電源を OFF->ON すると正常に動作する場合もあります。

動作

① ＦＡＸ着信時、ナンバーディスプレイ対応電話機が２～３回鳴動しますが、故障ではありません。
② ①以降の動作は通常のリモートモード／自動ベルモードと同じです。
③ 本機能を使用時には、自動モード切替を無し（ディップスイッチ８を無し（上））で使用してください。
　発信・着信ができなくなる場合があります。

その他

表示パネル

本体上面に設置されている表示パネルは、ナンバーディスプレイＡモードまたはナンバーディスプレイＢモードでご使用いただいた場合に、着信時に発信者番号が表示されます。
また、ＴＥＬ、ＦＡＸ、モデムに接続された電話機などからの発信におきましても、発信の際のダイヤル番号が表示されます。

瞬断検知スイッチ

本装置の着信時、発信側の切断を検知する場合には通常ビジートーンを検知しますが、ＣＰＣ信号（瞬断信号）も合わせて検知する場合にはディップスイッチ１０を「上」（有り）にします。
※ノイズ等が多い場合には使用しないでください。ノイズをＣＰＣ信号と認識し、切断する場合があります。

接続での注意事項

1. 本装置に関しての注意事項
　・本装置は極性に指定はありませんが、接続する電話機／ＦＡＸ／モデムは極性の指定がある機種があります。
　・「外部ベル」をご使用のお客様はＴＥＬ端子に並列接続してください。
　・本装置をＰＢＸ内線／専用線などに接続した場合に、発信側が電話の呼出中に切っても、本装置に接続した電話のベルが所定の回数鳴動する可能性がありますのでご注意ください。

2. 電話機に関しての注意事項
　・電話機／留守番電話など、電話着信時に応答する端末をＴＥＬ端子に接続してください。
　・ホームテレホン／ビジネスホン／交換機などを接続する場合、ＴＥＬ端子から各装置の回線接続端子へ接続してください。

3. ＦＡＸに関しての注意事項
　・本装置からの配線は、ＦＡＸ本体の回線接続端子（Ｌ１・Ｌ２、ＬＩＮＥなど）に接続してください。
　・ＦＡＸ本体は自動受信に設定してください。また、ＦＡＸ本体の切替機能は解除してください。相手機種により正常に受信できなくなる可能性があります。
　・ＦＡＸ本体に発信機能が内蔵されていないときは、必ず発信用の電話機をＦＡＸ本体に接続してください。ＴＥＬ端子に接続された電話機を発信用の電話機として使用する事はできません。
　・ＦＡＸ本体に電話が内蔵されたものであっても、電話着信時にこの電話機で応答できません。
　　電話着信時の応答は、ＴＥＬ端子に接続された電話機から行ってください。
　・ハンドセットが内蔵されていないＦＡＸ本体の場合、ＦＡＸモードを正常に運用できないことがあります。

4. モデムに関しての注意事項
　・本装置からの配線は、モデム本体の「ＬＩＮＥ端子」に接続してください。
　・通常は自動着信の設定で使用してください。ただし、ＦＡＸモードのときは手動着信に設定を変更してから使用してください。

停電の場合

・停電時（本装置に電力が供給されない状態）は、ＴＥＬ端子のみ使用可能です。
　この場合、本装置が関与しない状態（電話・ＦＡＸ着信のすべてがＴＥＬ端子に接続された電話機へ着信を行う）になります。
　停電時でも発信・着信を正常に行うため、必ず電話機はＴＥＬ端子へ接続してください。

5. 各モードの設定

自動ベルモード

概要

電話とＦＡＸを自動的に切り替えます。着信すると本装置が自動応答し、ＦＡＸ信号を検知するとＦＡＸへ転送します。ＦＡＸ信号がない場合は、電話機を呼び出します。
自動ベルモードには、ノーマル・ナンバーディスプレイＡモード・ナンバーディスプレイＢモードの３種類があります。

【ノーマル】
電話とＦＡＸを自動的に切り替えます。
ＦＡＸ信号を検知するとＦＡＸへ切り替え、ＦＡＸ信号が無い場合は電話機を呼び出します。

【ナンバーディスプレイＡモード】
ナンバーディスプレイ回線を接続した場合、電話とＦＡＸを自動的に切り替えます。
ＦＡＸ信号を検知するとＦＡＸへ切り替え、ＦＡＸ信号が無い場合は電話機を呼び出します。
発信者番号情報（ナンバーディスプレイ情報）はスルー（直通）状態になりますので、ＦＡＸ着信時でも電話機が鳴動します。
電話機が鳴動し、発信者番号情報を電話機が表示した後にＦＡＸ側の鳴動が開始されます。

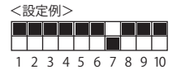
【ナンバーディスプレイＢモード】（モデムダイヤルインでご使用の場合は、ナンバーディスプレイＢモードで運用してください。）
ナンバーディスプレイ回線を接続した場合、電話とＦＡＸを自動的に切り替えます。
ＦＡＸ信号を検知するとＦＡＸへ切り替え、ＦＡＸ信号が無い場合は電話機を呼び出します。
本装置が発信者番号情報（ナンバーディスプレイ情報）をメモリして、電話着信時にその情報を再送出するので、ＦＡＸ着信時には電話が鳴動せずにＦＡＸの着信ができます。
接続された電話機が着信してから鳴動するまでに５秒程度の時間がかかります。
※回線の状況、送信側のファクシミリによっては鳴動する場合があります。

使用するためのディップスイッチ設定

ノーマル

モード切替　（ディップスイッチ１）＝ 自動ベル（上）
ナンバーディスプレイ　（ディップスイッチ２）＝ 無し（上）

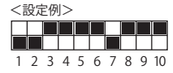
<設定例>



ナンバーディスプレイＡモード

モード切替　（ディップスイッチ１）＝ リモート（下）
ナンバーディスプレイ　（ディップスイッチ２）＝ 有り（下）

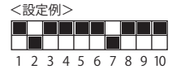
<設定例>



ナンバーディスプレイＢモード

モード切替　（ディップスイッチ１）＝ 自動ベル（上）
ナンバーディスプレイ　（ディップスイッチ２）＝ 有り（下）

<設定例>



裏面もございます。

ランプ状態

自動ベルランプが赤色点灯します。

補足

※ディップスイッチの設定例は、初期設定値から自動ベルモードを使用した際の設定例となります。
　他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。
※ディップスイッチの詳細は、後述の【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。
※留守などで電話に出られなかった場合でも、発信者側（電話を掛けた側）は課金されます。
※電話機の呼び出しベル回数は約３０回（約９０秒）です。約３０回以内に応答がない場合は切断します。
※仮着信を開始してから約８秒経過後に電話の呼び出しを開始します。
※ＦＡＸへの着信の時、ＦＡＸ信号を検知した時点でＦＡＸ呼び出しを開始します。
※電話・ＦＡＸともに、発信者側（電話を掛けた側）には、応答までリングバックトーン（疑似呼び出し音）を送出します。
※発信者側、受信者側の双方に本装置が設置してある時に、トーン送出（ディップスイッチ７）を有り（上）に設定することにより、
　電話番号をダイヤルするだけでモデムの自動切替も行えます。

リモートモード

概要

着信すると自動切替を行わず、電話機を呼び出します。
応答後、電話機からのダイヤル操作でＦＡＸ、モデム端子へ切り替えます。（応答するまで課金は発生しません）

使用するためのディップスイッチの設定

モード切替　（ディップスイッチ１）　＝　リモート（下）
ナンバーディスプレイ　（ディップスイッチ２）　＝　無し（上）

＜設定例＞

ランプ状態

リモートベルランプが緑色点灯します。

補足

※ディップスイッチの設定例は、初期設定値からリモートモードを使用した際の設定例となります。
　他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。
※ディップスイッチの詳細は、後述の【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。

自動モード切替について

リモートモードを有効にして自動モード切替も有効にすると、電話機の呼び出しベルが１０回以上鳴った場合に、次回以降の着信から自動ベルモードに移行することができます。
これにより、有人時（電話機の呼び出しベルが１０回以上鳴る前に応答した場合）には常に電話へ着信が行われ、不在時（電話機の呼び出しベルが１０回以上鳴った場合）には次回着信より自動ベルモードに移行され、電話なら電話着信、ＦＡＸならＦＡＸ機へ自動切替を行うことができるようになります。
自動ベルモードからリモートモードへ移行（解除）するには、電話機の受話器またはＦＡＸの受話器などを上げることにより解除されます。

［リモートモード］　電話機の呼び出しベル回数が１０回以上鳴っても応答がない場合、次回着信時には自動ベルモード（ノーマル）となります。
↓
［自動ベルモード］　電話機またはＦＡＸの受話器を上げるとリモートモードに戻ります。一度電話に応答すると、リモートモードに戻ります。ＦＡＸ受信の時は自動ベルモード（ノーマル）のまま戻りません。

リモートベルランプ（緑色）、自動ベルランプ（赤色）の両方が点灯します。

ご注意	上記の動作は、自動モード切替を有効（ディップスイッチ８を「下」）にした時のみ働きます。 ナンバーディスプレイＡモードまたはナンバーディスプレイＢモードの時は、この機能は使用できません。

ＦＡＸモード

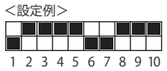
概要

電話・ＦＡＸ・モデム等すべての着信に対して、直接ＦＡＸを呼び出します。

使用するためのディップスイッチの設定

モード切替　（ディップスイッチ１）　＝　リモート（下）
ナンバーディスプレイ　（ディップスイッチ２）　＝　無し（上）
ＦＡＸモード　（ディップスイッチ６）　＝　有り（下）

＜設定例＞



ランプ状態

リモートベルランプが緑色点灯します。

補足

※ディップスイッチの設定例は、初期設定値からリモートモードを使用した際の設定例となります。
　他の機能と併用した場合、ディップスイッチの設定値は変わります。
※ディップスイッチの詳細は、後述の【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。
※ＦＡＸモードはリモートモードでしか設定できません。自動ベルモードで設定をすると、誤動作が発生する場合があります。
※自動ベルモード（ナンバーディスプレイＡモード・ナンバーディスプレイＢモード）のときは、この機能は使用できません。
※リモートモード時のナンバーディスプレイ回線の場合、オンフック転送は使用できません。

6. 操作方法

◆基本操作

1. 電話、ＦＡＸ、モデムから 発信 したいとき
・電話、ＦＡＸ、モデムの各端末から通常通りの発信操作をしてください。
　※他の端末が回線使用中の場合、受話器から話中音が聞こえます。他の端末が通話を終了してから再度発信操作を行ってください。

2. 掛かってきた電話を受けるとき
・電話機のベルが鳴ります。通常通り受話器を上げてお話しください。

3.ＦＡＸが送られてきたとき
■自動ベルモード時
　本装置がＦＡＸ信号を検知すると、自動的にＦＡＸへ切り替えます。
　ＦＡＸ信号（ＣＮＧ信号）が無い場合は、電話機へ切り替えます。
　本装置がＦＡＸ信号を検知できなかった場合、下記項目４の手順で手動転送を行ってください。
■リモートモード時
　電話機に着信します。下記項目４の手順で手動転送を行ってください。

4. 電話を受け、ＦＡＸから着信のとき
・リモートモード時にＦＡＸ着信だったときなど、手動操作でＦＡＸに切り替えできます。
　ＦＡＸ信号音が聞こえてきたら、電話機の「６」をダイヤルします。
「ピッピッピ」と合図音が受話器より聞こえます。（聞こえない場合はもう一度「６」をダイヤルしてください。）
　すぐに（５秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）

5. 通話中にＦＡＸへ切り替えしたいとき
・ＦＡＸ信号を検知すると「ピッピッピ」と切替合図音が受話器より聞こえます。
　すぐに（５秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）
・電話機の呼出ベルが鳴り始めてから約１分経過すると通話中のＦＡＸ切替操作はできなくなります。
・ＦＡＸへの切り替えは電話着信時に可能です。電話発信時には切り替えできません。

6. 電話を受け、モデムから着信のとき ／ 通話中にモデムへ切り替えしたいとき
・電話機の「８」をダイヤルします。
「ピッピッピ」と転送合図音が受話器より聞こえます。（聞こえない場合はもう一度「８」をダイヤルしてください。）
　すぐに（５秒以内）受話器をお戻しください。（電話を切る操作）
・電話機の呼出ベルが鳴り始めてから約１分経過すると通話中のモデム切替操作はできなくなります。
・モデムへの切り替えは電話着信時に可能です。電話発信時には切り替えできません。

◆特殊操作

1. 受話器を戻すだけでＦＡＸへ転送できます。（オンフック転送）
・本装置のオンフック転送スイッチを有り（ディップスイッチ９を「下」）に設定して、電話機の受話器を上げた場合に、相手が
　ＦＡＸであれば受話器を戻すだけでＦＡＸへ転送されます。
・リモートモードでナンバーディスプレイ回線の時、この機能は使用できません。
　電話機より「６」をダイヤルして手動転送してください。
・接続回線（ＰＢＸ内線、専用線等）によっては、この機能が正常に動作しない場合があります。
・ディップスイッチの詳細は、【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。

2. 電話が掛かってきて、留守など出られないとき
・自動ベルモードでは、電話の呼出ベルを約３０回以上鳴らします。応答が無い時は回線を切断します。
・リモートモードでは、発信側が呼出を止める（電話を切る）まで電話機を呼び出します。
・リモートモード時、本装置の自動モード切替を有り（ディップスイッチ８を「下」）に設定しておく事により、１０回以上
　呼び出して応答が無かった時、次の着信からは自動ベルモードで動作します。
　（【5. 各モード設定】の [リモートモード] を参照してください）
・ディップスイッチの詳細は、【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。

3. 発信側より直接本装置のモデム端子を呼び出す事ができます
・発信側・受信側の双方に本装置が設置してある場合、トーン送出を有り（ディップスイッチ７を「上」）に設定しておくことにより、
　発信側モデムから電話番号をダイヤルするだけで受信側モデムを直接呼び出す事ができます。
・発信側に本装置が設置されていない場合、発信側モデムから電話番号をダイヤルして本装置が応答した後、「８」をダイヤルして
　モデム端子を呼び出してください。
・トーン送出を有り（ディップスイッチ７を「上」）に設定すると、本装置が着信した時点で送信先に「ピッピッ」と音を返します。
・本装置は必ず自動ベルモード（ディップスイッチ１を「上」）に設定してください。
・「８」をダイヤルする際、本装置が応答後８秒以内に送出してください。
　本装置のリングバックトーンと重なると検知できない場合があるため、ダイヤルする際は連続して２～３回送出してください。
・ディップスイッチの詳細は、【メインディップスイッチ機能一覧】を参照してください。

4. ボイスワープサービスを利用して電話着信を転送することができます。
・アナログのボイスワープサービスに対応しています。ＩＮＳ６４やひかり電話のボイスワープサービスには対応していません。
・契約回線がプッシュ回線でないとご利用できません。
・あらかじめ、ＮＴＴのボイスワープサービス「応答後転送を利用する」の設定をします。

ＮＴＴボイスワープサービス「応答後転送を利用する」の設定

ＮＴＴボイスワープを「転送開始」にしている場合は、あらかじめ「転送停止」にします。
受話器を上げ、 1 4 2 とダイヤルします。
ガイダンスが流れますので、続けて 4 とダイヤルします。（初期設定）
ガイダンスが流れますので、続けて 5 とダイヤルします。（応答後転送の設定）
ガイダンスが流れますので、続けて 1 とダイヤルします。（応答後転送ありに設定）
ガイダンスが流れますので、続けて 9 とダイヤルします。（操作の終了）
「プーッ、プーッ・・・」と聞こえたら設定完了です。受話器を置きます。
ＮＴＴのボイスワープを「転送開始」にする必要はありません。「転送停止」にしてください。

ボイスワープの転送先電話番号の登録

受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 2 0 0 とダイヤルします。
次に転送先電話番号を入力します。（例：転送先を携帯電話 [０９０－１２３４－５６７８] としたとき）
例）　0 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8
最後に、 # を押して受話器を置きます。

転送を開始する

電話／ＦＡＸの着信を本装置が切り分け、電話着信の場合のみ指定した転送先電話番号へ転送を行います。
受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 2 0 1 とダイヤルします。
最後に、 2 # とダイヤルして、受話器を置きます。

転送を停止する

本装置のボイスワープ設定を解除します。
受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 2 0 1 とダイヤルします。
最後に、 1 # とダイヤルして、受話器を置きます。

・転送先の電話番号は、本装置の電源をＯＦＦにしても消えません。
・転送先の電話番号は「１８４」・「１８６」などの番号を含めて登録ができます。
・ＮＴＴの一部の番号は本装置の転送先電話番号として登録はできますが、転送動作は行いません。（「１１７」や「１１４」など）

5. 発信者番号でのＦＡＸ切り替え
・登録された発信者番号から着信があった場合、そのままＦＡＸへ切り替えます。
・切り替えに必要な時間を短縮できます。

番号の登録方法

受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 3 0 0 とダイヤルします。
次に登録するＦＡＸ切替の対象電話番号を入力します。（例：ＦＡＸ切替の対象電話番号 [０１２－３４５－６７８９] としたとき）
例）　0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
最後に、 # を押します。
登録に成功すると、「ピッポッ」と音が聞こえます。

※同じ番号を登録しようとした場合、「ピッピッピッ」とエラー音が聞こえます。
※登録件数がオーバーした場合、「ピッピッピッ」とエラー音が聞こえます。
※登録番号は１件につき１６桁までです。
※登録番号は最大２０件まで登録できます。

番号の削除方法

受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 3 0 1 とダイヤルします。
削除する番号をダイヤルします。
最後に、 # を押します。
削除に成功すると、「ピッポッ」と音が聞こえます。
※登録が無い場合、「ピッピッピッ」とエラー音が聞こえます。

番号の確認方法

受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 3 0 2 とダイヤルします。
「ピッポッ」と音が聞こえ、表示パネルに登録番号が順番に表示されます。
登録番号が複数の場合は、１．５秒ごとに表示が切り替わり、すべての表示が終わると終了します。
※電話機の受話器を置いても表示は継続されます。

番号の初期化方法

受話器を上げ、 ＊ 9 9 9 9 とダイヤルします。
続けて、 ＊ # 3 0 3 とダイヤルします。
「プププププ・・・」と音が鳴っている間に 1 をダイヤルします。
初期化が成功すれば、「ピッポッ」と音が聞こえます。
1 以外のダイヤルの入力、または５秒間ダイヤルが無ければ初期化は実行されません。

7. メインディップスイッチ機能一覧

ｽｲｯﾁNo.	機　能	設　定		備　考
1	モード切替	上	自動ベル	自動ベルモード、リモートモードの切替スイッチです。
		下	リモート	
2	ナンバーディスプレイ	上	無し	ナンバーディスプレイサービスと、通常回線との切替スイッチです。
		下	有り	
3	音声ガイダンス有無	上	有り	音声案内を有りにする、無しにするのスイッチです。
		下	無し	
4	メンテナンス用	上		常に上にしてください。
		下		
5	メンテナンス用	上		常に上にしてください。
		下		
6	ＦＡＸモード	上	無し	ＦＡＸモードを有効（有り）にする、無効（無し）にするのスイッチです。
		下	有り	
7	トーン送出	上	有り	対向サービスのためのトーンを送出する（有り）、しない（無し）のスイッチです。
		下	無し	
8	自動モード切替	上	無し	リモートモード設定時、１０回コールで出なかった場合、自動ベルモードに移行するか、しないかを設定するスイッチです。
		下	有り	
9	オンフック転送	上	無し	オンフック転送をする（有り）、しない（無し）を設定するスイッチです。
		下	有り	
１０	瞬断検知	上	有り	相手側が通話を切断した場合、瞬断信号を検知する（有り）、しない（無し）を設定するスイッチです。
		下	無し	

白抜き文字は初期値

8. 故障と考えられるとき

症　状	確認および対処方法
ＬＥＤランプがいずれも点灯していない	・ＡＣアダプタが抜けていませんか？ ・アダプタがコンセントから外れていませんか？
電話・ＦＡＸ・モデムから発信できない 発信しようとすると話し中の音がして発信できない	・回線は、本装置のL_1L_2に接続されていますか？ ・各端末のダイヤル、プッシュの設定はあっていますか？ ・他の端末が回線使用中ではありませんか？ ・極性はあっていますか？　極性反転を検知していませんか？
電話が受けられない 電話のベルが鳴らない	・電話機は本装置のＴＥＬ端子に接続されていますか？ ・電話機のベルが鳴らないようになっていませんか？
ＦＡＸが受信できない	・ＦＡＸは自動受信になっていますか？ ・ＦＡＸの記録紙はありますか？ ・ＦＡＸの電源は入っていますか？ ・ＦＡＸは本装置のＦＡＸ端子に接続されていますか？ ・送信側ＦＡＸからＦＡＸ信号は送出していますか？ ・送信側ＦＡＸがＦネットを利用していませんか？
モデムが受信できない	・モデムは自動受信になっていますか？ ・モデムの電源は入っていますか？ ・モデムは本装置のモデム端子に接続されていますか？ ・本装置は自動ベルモードに設定されていますか？
電話機から「６」、「８」をダイヤルしても、ＦＡＸ、モデムに切り替わらない	・「６」、「８」をダイヤル後、すぐに受話器を戻していますか？ ・ＦＡＸ、モデムは本装置に正しく接続されていますか？ ・ＦＡＸ、モデムの電源は入っていますか？ ・ＦＡＸ、モデムは自動受信になっていますか？
発信側が電話を呼出中に課金されてしまう	・自動ベルモードになっていませんか？
外部から留守番電話のリモート操作ができない	・暗証番号「＃」は登録してありますか？
発信側が電話呼出中に切っても呼出ベルが鳴る	・ＰＢＸ、内線／専用線に接続されていませんか？
モデムダイヤルインでの着信ができない	・ナンバーディスプレイＢモードで運用していますか？ ・ダイヤルイン番号は市外局番から入力していますか？

9. 仕様一覧

収容回線数	１回線	消費電力	６ＶＡ（最大値）
接続端末数	３端末	温　　度	５℃　～　４５℃
回線接続方式	通信コネクタ	湿　　度	２０％　～　８０％ＲＨ
配線方法	２線スター	本体寸法	２２０×１７０×４０（D×W×H）（mm）
電　　源	ＤＣ１５Ｖ／４００ｍＡ（ｾﾝﾀｰﾏｲﾅｽ）	本体重量	約５００ｇ